

まちづくり通信No.77 市民ネットワーク

発行 市民ネットワーク/編集 市民ネットワークみはま
千葉県美浜区高洲1-24-2 千葉県不動産会館ビル3F
〒261-0004 Tel・Fax 278-5005
メールアドレス・mihama@chibanet.jp
http://www.chibanet.jp/mihama/index.html
配布地域 美浜区 配布部数:40,000部



湯浅美和子の 議会報告

代表質問から

熊谷市長、これからの4年間、 どう取り組みますか？

代表質問では、市長選に向けて公開された詳細なマニフェストにそって、市民ネットワークが課題と考える9項目を取り上げました。またマニフェストではありませんが、私たちとして確認しておくべき憲法と脱原発への考え方も聞きました。

市長の基本姿勢について—憲法と脱原発—

憲法九条については「戦力の不保持については今後国民的議論の余地がある」、また脱原発では「現実的なプロセスを経て原子力の依存度を下げることが重要」とこれまで同様の答弁。しかし改憲や原発再稼働が懸念される中、危機感が感じられず、非常に残念。今後も首長としてのあり方を問い続けていきたいと思えます。

マニフェストに沿って

◆市民の参画

「オープンデータ(*)の推進」などで市民と行政の関係をフラットにし、市民や団体、企業などが連携して課題解決に向け取り組んでいく仕組みを構築したい、とのこと。SNS(*)の活用が個人的な市政への参画だけに終わらぬよう、また地域課題解決に向け活動する団体への支援を本格的に考えてほしい。

*オープンデータ：国、地方公共団体、公益企業等が保有する公共データを利用しやすい形でオープン化する取り組み

*SNS：ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)は、人と人のつながりを促進するコミュニティ型Webサービス。ユーザー個人がさまざまな生活体験や思いを発信し、それらが人から人へ伝わり、個人でも社会に対して情報発信ができる

◆女性の視点を活かしたまちづくり

前期マニフェストに男女共同参画の視点がなかったことを指摘してきたが、今回「女性の視点」が加わったことを評価。自治会役員に女性の参画を働きかけるといふが、その前に女性管理職の割合を30%まで引き上げるよう努力すべきでは。

◆農村の魅力を引き出すには

「そこそこ都会、そこそこ田舎」を千葉の新たな魅力として売り出したい、というのが市長の目玉の一つ。私たちもこれまで遊休地を活用した市民農園支援などを提案してきており、思いは同じ。宿泊可能な観光レジャー的な農村部の活用もあるのではないかと。

◆この他に、以下6点についても聞きました。

「維持費削減のため資産総量を縮減することについて」「在宅医療・在宅介護のうち認知症関連」「保育士確保と保育の質の充実」「市庁舎建て替えの考え方」「循環型社会の推進」「みどり豊かな環境を守る」

一般質問から

子宮頸がんワクチン、ストップ?!

子宮頸がんワクチンは癌を予防できるワクチンとして、4月から中学1年女子を対象に定期接種化されましたが、各地で重篤な副反応の報告が相次ぎ、厚労省は6月14日「積極的勧奨は差し控える」よう自治体に通知。千葉市内での報告はこれまで8件、うち1件が重篤な副反応が疑われています。

子宮頸がんは、主に性交渉によるヒトパピローマウイルス感染が原因で発病しますが、ワクチンの対象となるウイルスは2種類のみ。その感染率は健康な女性では1%以下といわれ、99%が感染しない型に対し定期接種とすることに、これまでも議論があったところです。

市民ネットはこれまでも、予防接種ありきではなく、検診の充実による早期発見・早期治療、年齢に応じた性教育を充実させることを求めてきました。これ以上被害をださないために、自治体からの予防接種の情報提供はリスクを含め充分行ってほしいと思えます。

参議院選挙を終えて

大方の予測通り自民党が圧勝。安倍総理は選挙後、現政権が信任された、今の政策を進めよ、という国民の声だと言っていた。本当にそうだろうか？ 自民支持が増えたというより、入れるところがない、という国民の選択(棄権)の結果が、自民圧勝につながったと思う。反自民の陣営がもっと積極的に候補者の一本化を図るべきだったし、それに向けての私たち市民の働きかけも足りなかった。しかし、結果的に原発推進、TPP、憲法改悪など加速することは間違いない。今後は個別の政策への市民の声を政府に見せて行くことが必要だ。市民ネットの活動も大きく問い直される時期を迎えている。

(磯辺 岩橋百合)

POST CARD

50円切手をお貼りください

261-0004

千葉県美浜区高洲1-24-2
千葉県不動産会館ビル3階

市民ネットワークみはま 行

〈ご意見欄〉

『海辺を活かしたまちづくり』にも市民参加を!

千葉市が稲毛海浜公園(検見川地区)の魅力高め、賑わいを創出するために行っている取り組みがいくつかあります。今年5月より路線バスが、新検見川駅から検見川浜駅を經由し稲毛ヨットハーバーまで延伸され、5月には第1回検見川ビーチフェスタが開催されました。また今秋までの社会実験として焼きそば、ビールなどの販売が土日祝日限定で楽しめます。熊谷市長が再選され、マニフェストにある「神戸・横浜とはひと味違う海辺のまちへ」が動き出しています。

みはまネットでは14年前に【ベイエリアを楽しくする会】を作り、調査研究を重ね、美浜区周辺の海岸への提案をしました。千葉県・千葉市・企業庁に提案してから車椅子で海辺を利用できるようになるなど少しずつは進んできましたが計画が出来ても財政難などで止まってしまいました。今年度は民間のノウハウや資金を導入するための公募がある予定ですが、市民参加で進むよう期待し、協力もしていきたいと考えています。

(高浜 佐々木)



提案書「干潟の森へ」2000年10月制作・発行

